

# 「第1回後志利別川流域タイムライン検討会」

平成29年9月28日(木)今金町民センターにおいて、「第1回後志利別川流域タイムライン検討会」を開催しました。第1回検討会では、今後のタイムラインの検討に活用すべく、平成29年9月に当流域に上陸した台風18号に対し、各防災機関が行った対応の振り返りと課題抽出等を行いました。

- 開催日時 平成29年9月28日(木) 13:30 ~ 17:00
- 実施場所 今金町民センター 2階大会議室 (今金町)
- 参加機関 せたな町、今金町、防災関係機関 各町内会 23機関 68名

## 開会

開会にあたり函館地方気象台の鈴木防災管理官から挨拶があり、「今回の台風18号では、多くの農業漁業等の被害が出ており、平成28年の台風10号を若干上回ると聞いている。防災は日頃からの備えが大切。検討会には町内会や防災関係者が集まっており、地域の防災力向上につながる。」と述べました。その後、今金河川事務所の秋山所長から本検討会の設立趣旨と参画機関の拡大について説明がありました。



函館地方気象台  
鈴木防災管理官



函館開発建設部  
今金河川事務所  
秋山所長

## 平成29年台風18号の出水状況について

函館地方気象台の松川水害対策気象官から 台風18号についての気象概要と警報・注意報等の気象台発表の情報について説明がありました。その後、今金河川事務所の秋山所長から台風18号に関し、せたな・今金両町長に行ったホットラインと、両町に提供したダム放流量予測や河川水位予測の提供状況と各予測図の見方について説明がありました。



函館地方気象台  
松川水害対策気象官



ワークショップで張り出された意見

## 参加機関による台風18号振り返りワークショップ

ワークショップでは、各機関が台風18号に対しどのような「防災行動」を「いつ」行ったのかを付箋紙に記入し、張り出しました。また、防災行動実施時の課題等も併せて書き出し、防災対応をするうえで出た疑問を投げ掛けるなど、会場全体で課題解決のための議論も行いました。その中で、今回の洪水時に両町へ提供した水位やダム放流の予測情報を頭首工や排水機場等の施設操作のため、他機関にも提供して欲しいとの意見があり、参画機関へのメーリングリスト配信を検討することとしました。また、役場職員から具体的な役割が明確では無かったという意見もあり、今後の検討会を通して明確にしていくことで確認しています。



ワークショップ

## 後志利別川流域タイムライン検討のための災害シナリオ・リスクの説明

本タイムラインでは、過去に発生した内水氾濫と想定最大規模の降雨による浸水想定をハザードとしました。気象と浸水のシナリオについて、函館地方気象台の松川水害対策気象官と今金河川事務所の秋山所長から、対象とする気象条件、降雨量、ダム放流量、河川水位、堤防が決壊した場合の浸水状況などを時間毎に説明がありました。



シナリオ説明

## 全体講評

函館地方気象台の鈴木防災管理官から全体講評が行われ、「立場の違う多くの方と検討できたことは喜ばしい。本日挙げられた多くの課題が検討会を通じ、少しでも解決できることを願っている。情報伝達は重要だが、住民に対する伝達方法はまだまだ課題が多い。この検討会以外にも、地域の防災訓練等に積極的に参加し、防災意識を向上してほしい」と述べました。